

2018年11月29日（木）15：30～17：00
障害学生支援理解・啓発セミナー3【国公立大学等分科会】

**支援について考える
～シラバス・情報共有・
学内における理解啓発～**

長崎大学 障がい学生支援室

PETER BERNICK

本日の課題

- 支援を検討する際のシラバスの位置付けと重要性
- 外部実習先との情報共有
- 学内における理解啓発（教職員を対象としたFD等）

本学の状況

- ❖ 学部生・大学院生 約9,000人 (H30)
 - 学部 = 9 研究科 = 7
- ❖ 障害のある学生 (今年度の調査) 約180名
- ❖ このうち、55名は「合理的配慮依頼文書」有り
 - 配慮依頼文書はないが、カウンセリング等のサポートを受ける学生も多い
- ❖ 障害の内訳：精神 約 60%、発達 約 30%
 - 障害のある学生の約 80%

シラバスの位置付けについて

文部科学省の検討会報告より

1. 合理的配慮：障害のある学生に対し、その状況に応じて、大学等において教育を受ける場合に個別に必要とされるもの。（第一次まとめ⁽¹⁾）

「必要とされるもの」（ニーズ）

授業で求められるもの（本質等）

個別に必要とされるものを検討するためには、（当然ですが）本質がどこにあつて、変更可能な点・変更できない点が見えていないと検討ができない

1. 3つの方針（AP, CP, DP）やシラバス等の明確化・公開により、教育の本質を可視化することで<中略>合理的配慮の提供において変更可能な点と変更できない点を明確にする。（第二次まとめ⁽²⁾）

授業開始後の配慮検討のみならず…

- ❖ 特に、シラバスに授業の目標、内容、評価方法を明記することは、授業選択の手掛かりとなるばかりでなく、障害のある学生が大学等からの支援が必要かどうかを事前に検討する上でも重要な情報となる。

また

- ❖ 支援の在り方について事前に検討できるよう、試験の形式や、評価基準について、シラバス等に明記する。

(第二次まとめ⁽²⁾)

シラバス

アクセシ
ビリティ

授業設計

授業設計及びアクセシビリティについて

1. どのような状況なのか（受講する学生、教養か専門か、自由選択か必須か、他の科目との関係、物理的な場所等）、到達目標、評価基準や方法、学生の具体的な学習活動（到達目標達成のため、「聞くこと」だけで十分なのか、「読むこと」「すること」などが必要なのか等）を検討の上、設計する
2. 設計の検証：学生が活動に取り組む意欲に欠けていたらどうするのか、学生の参加を促すような設計になっているのか、学生へのフィードバックはあるのか 等
3. 教科書や授業資料はダウンロード可能で、テキストデータになっているか（読み上げ機能が使えるか）
4. 視聴覚教材には字幕を必ずつける
5. アクセシビリティに対応していない教材の代替策を講じる
6. シラバスに「アクセシビリティについて」の項目を記載する（学生の相談を促す）

事例：とある日、障がい学生支援室にて

- 「演習だと知らなかった。困った」と言って来談
⇒ じゃあ、一緒にシラバスを確認しましょう
- シラバスは2つ存在：学習管理システム上(A) と学部資料(B)
- 今回の「演習」のある授業については以下の記載があった

シラバス A	〇〇治療時の心肺蘇生法を学ぶ
シラバス B	〇〇治療時の心肺蘇生法（必要な基本的救急蘇生：BLS）を学ぶ。〇〇治療時に起こる全身的偶発症とその対処法を学ぶ。 (教材) □△□△学、マネキンを用いて実際の心配蘇生を学ぶ

※学部の資料はダウンロード可能なPDFになっているが、PDF化の際に文字ではなく画像として読み込まれたため、資料内検索も読み上げもできない。

シラバスに関する小まとめ

1. 学生一人ひとりの「得意」な学び方が異なる（例：聴覚優位、視覚優位等）

- 情報提示の方法、授業や課題に取り組む方法、評価の方法など「学びのユニバーサルデザイン」（UDL）の要素を導入し、シラバスに明記することは障害のある学生のみならず、全ての学生にとって有用

2. 詳細な情報が記載されたシラバスがあれば・・・

- 授業を履修する前に学生がシラバスを見て、「この部分は自分にとって困難になりそう」などの検討が可能になり、必要な配慮も見えやすくなる
- 生じ得る問題を特定し、事前に対処することもでき、問題処理に費やされる時間と労力が減る

学外実習における情報共有（1）

- 「学外」の前に学内「合理的配慮依頼文書」から
- 学内での使用が前提
- 一般の情報共有について配慮申請時に同意を得る

《個人情報の第三者提供に関する同意について》

障がい学生支援室でお預かりしたあなたの個人情報を、修学支援を円滑に行うため下記関係者と共有することがありますが、あなたの同意を得ることなく共有することはありません。共有に同意できる関係者にチェックをして下さい。なお、個人情報をその他の目的に一切使用しません。

【学内関係者に関する同意】	する	しない	【学外関係者に関する同意】	する	しない
教育支援課（教養教育班）担当者	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	保護者	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
学務担当者	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	出身校	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
修学に関係する教職員	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	医療機関	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

※上記以外の情報共有については、その都度確認し、決定します。

私はこの申請を行うにあたり、上記のとおり、関係者と個人情報を共有することに同意します。

平成 年 月 日
氏名 _____

学外実習における情報共有（２）

- 学部からの問い合わせ：「合理的配慮依頼文書は学外実習の際にそのまま使用していいか」
 - 状況が変われば、ニーズも変わる：実習内容の確認、建設的対話によって配慮を検討・決定
 - 配慮申請当初の際に学外についても同意を取得？
- 学外実習が多いため、全学的な方針が望ましい
 - 学内の全学部・研究科を調査（現状把握）
 - 全学の方針作成へ（コピーの可否、伝達手段等）
 - 方針ができて、各学部・研究科で微調整が必要になる
- 実習における配慮の検討や情報共有について学生の参加は必要不可欠

学内における理解啓発（FD等）

- **教職員の誤解を解消するために重要である**
 - 「学生を平等に扱うので、試験における配慮に関する話し合いに参加しない」
 - 「事前相談の期限までに何も言わなかったら、対応・配慮しなくていいのでは」
- **FD・SDを実施するに当たって**
 - 複数回開催しても、来る人が決まっていて、情報が全教職員に浸透しない
 - オンライン受講、なおかつ義務化、を検討中
(大学のコンプライアンスの一環として位置づける)

「平等な対応」 ≠ 「平等な機会」



Equal
平等



Equitable
公平



Universal
ユニバーサル

画像出典：<http://www.theinclusionsolution.me/equity-vs-equality-eliminating-opportunity-gaps-education/> アクセス日：2018年9月30日

まとめ

- **授業設計の段階でアクセシビリティや学びのユニバーサルデザイン（UDL）を考慮した上でシラバスを作成することが大切である。**
 - ✓ より多くの学生にとってわかりやすく、授業に取り組みやすい。
 - ✓ UDLを導入すると、一般的な「合理的配慮」（資料の事前配布等）が最初から組み込まれることで配慮が不要になることも。
 - ✓ 個別対応にかかる時間・労力の減少にもつながる。
- **学外実習先との情報共有は個別に検討する必要がある。**
 - ✓ 環境が変わり、学内で実施した配慮と異なるものが必要となる場合が多い。共有について透明性を確保し、学生の同意を得る。
- **理解啓発は・・・永遠の課題である。**
 - ✓ 合理的配慮を理解していただくにも、偏見や先入観を無くすためにも必要不可欠である。
 - ✓ しかし、どのようにして大学の構成員全員に浸透させるのかは大きな課題である。

参考資料等

1. 文部科学省 障がいのある学生の修学支援に関する検討会報告（第一次まとめ） http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/24/12/1329295.htm
2. 文部科学省 障害のある学生の修学支援に関する検討会報告（第二次まとめ） http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/074/gaiyou/1384405.htm
3. **Planning Your Course:A Decision Guide** (Cornell University Center for Teaching Innovation) <https://teaching.cornell.edu/resource/planning-your-course-decision-guide> からダウンロード可（アクセス日：2018年9月22日）
4. **Accessibility Checklist** (Cornell University Center for Teaching Innovation) <https://teaching.cornell.edu/resource/accessibility-checklist> からダウンロード可（アクセス日：2018年9月22日）
5. **Syllabus Evaluation Rubric** (Cornell University Center for Teaching Innovation) <https://teaching.cornell.edu/resource/syllabus-evaluation-rubric> からダウンロード可（アクセス日：2018年9月22日）
6. 近畿管区行政評価局 障害のある学生等に対する大学の支援に関する調査 結果報告書 http://www.soumu.go.jp/main_content/000519202.pdf (2017.11)

ご静聴ありがとうございます

資料の要請：**bernick@nagasaki-u.ac.jp**